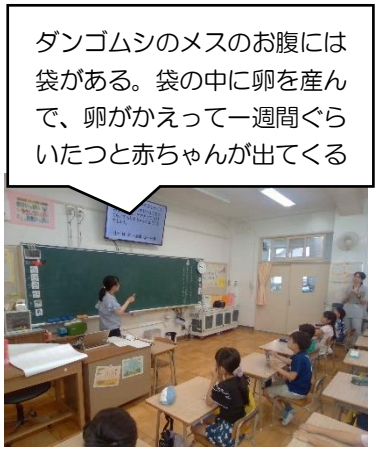
７月９日（火）、２年２組で国語科の努力点公開授業が行われました。単元は、「『生きものクイズ』でしらせよう」です。生活科で調べた生きもののすごいところについて友達に伝わるようなクイズを考え、進んで「生きものクイズカード」に書くことが目標です。

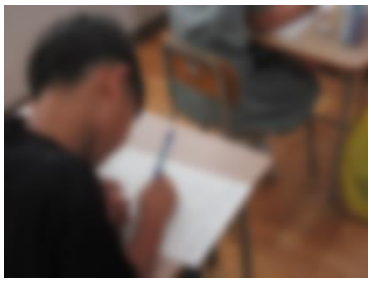
初めに、生活科で調べた生き物のすごいところを書いた「生きものすごいぞカード」の確認をしました。そして、それぞれが見付けた生き物のすごいところをクイズにして友達に伝えることを確認しました。

次に、教師がダンゴムシの「生きものすごいぞカード」をモデル文として提示しました。ダンゴムシのすごいところを確認し、その中から、クイズを全体で考えました。クイズの答えにしたい部分を代わりの言葉にするように考えさせました。例として、「一週間」を答えにするクイズを考えました。教師が、「『一週間』の代わりに、どんな言葉を使うとよいですか」と問うと、児童は「どれぐらい」と答えました。他にも、「何が」「どちらの」など、答えの代わりになる言葉を黒板に示しました。



【モデル文を確認する様子】

いよいよ、クイズ作りです。ここから個別の学習になりました。児童は、自分の「生きものすごいぞカード」の中から、答えにしたい言葉を選び、線を引きました。次に、線を引いた言葉が答えになるように言葉を換え、クイズを考えました。児童にとって、この場面が最も難しかったようですが、児童は、黒板に示した言葉を参考に、言葉をしっかり選びながらクイズを考えていました。そして、一人一人がクイズを作ることができました。


【クイズ作りをする児童】

最後に、説明文を書きます。教師が、「説明は、何を見ると書けますか」と投げ掛けると、児童は、「『生きものすごいぞカード』の『ここがすごい！』のところ」と答えました。すると、別の児童が、教師が示したクイズと「生きものすごいぞカード」を見比べて、「読んでみたら、ほとんど同じだ」と気が付きました。実は、説明文は、「ここがすごい！」の内容をそのまま書けばよいのです。多くの児童が説明文をすらすらと書き、クイズを完成させました。

【説明文を書く児童】

終わりのチャイムが鳴りました。すると、児童から、「まだやりたい！」という声が上がりました。教師が、「クイズ大会やりたい人？」と聞くと、全員が「はあい！」と大きく手を挙げました。今回の児童の様子から、児童は、書く内容が整理されていたり、書き方が分かったりすると、文章を進んで書くことができるということが分かりました。